

2020. 4. 26 第四主日礼拝

ルカ 24:13-16、25-35「心が内に燃える」

聖書

13 ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた。

14 彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。

15 話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。

16 しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。

25 そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。

26 キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」

27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。

28 彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。

29 彼らが、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。

30 そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。

31 すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

32 二人は話し合った。「道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」

33 二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。すると、十一人とその仲間が集まって、

34 「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。

35 そこで二人も、道中で起こったことや、パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した。

はじめに

今日も復活の主に出会った二人の弟子たちに着目してみましょう。二人の弟子とは 12 弟子とは違います。一人はクレオパと言いますが、もう一人の名前は分かりません。二人の弟子たちはイエスさまが復活された当日、エルサレムから約 11 km 離れたエマオという村に向かって歩いていました。そこにイエスさまが現れて、彼らにご自分を示されたのです。イエスさまが弟子たちに現れてくださったとき、彼らの目はさえぎられていたので、一緒に歩いてくださっている方が誰なのか分かりませんでした。道々イエスさまは弟子たちに、ご自分のことを聖書（旧約聖書）から丁寧に説き明かされました。一日の旅も終わりに近づき夕食の席に着いたとき、弟子たちの目が開かれ一緒に歩いてくださった方がイエスさまだと分かったのです。と同時にイエスさまの姿が見えなくなってしまいました。イエスさまの姿は見えなくなってしまいましたが、弟子たちの心にある印象が深く残ったのです。その印象を一人一人が味わうことができるように願いながら、彼らの中にどのような印象が残ったのでしょうか。

1. 見えているのに見えない

日曜日の早朝、復活のイエスさまはまずマグダラのマリアなど数人の女性たちにご自分の姿を現わされました。そのニュースはすぐに弟子たちにも伝えられました。イエスさまが十字架にかけられて三日後の出来事ですから、エルサレム中が十字架の話題で持ちきりです。二人の弟子たちも十字架の出来事と空の墓の謎について話し合いながらエマオに向かっていたのです。するとそこにイエスさまが現れ、「歩きながら語り合っているその話は何のこと

ですか。」と尋ねると、弟子たちは「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」(18節)といぶかります。弟子たちは復活の主を、過ぎ越しの祭りでエルサレムにやって来た巡礼者の一人だと思っていたのです。あれだけのことがエルサレムで起こったのですから、それを知らないなどということはあり得ないという思いが見て取れます。エルサレム中の話題となっているイエスさまが今一緒にいるのに、「二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。」(16節)のです。

彼らは旅人の一人としてイエスさまを見ています。肉体の目は開かれているのです。しかし、それが誰なのか分からないのです。そんなことがあるのでしょうか。見えているのに、見えていないとはどういうことなのか、その答えは道々イエスさまが弟子たちに語られた内容にありました。

2. ボタンの掛け違いを直す

イエスさまが現れてくださったのは、弟子たちの間違っただけのメシヤ像を正し、十字架と復活の意味を聖書(旧約聖書)から解き明かすためでした。以前にもお話ししましたが、弟子たちが持っていた救い主のイメージは、ローマ政府の圧政から解放してくださる救世主でした。事実彼らは「私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。」(21節)と語っています。最初のボタンを掛け違えたままイエスさまを見ていますから、政治的解放者として期待するメシヤ像と十字架に向かう現実とが噛み合わなくなり混乱しているのです。弟子たちの混乱は理想と現実の食い違いから来ているのです。私たちも理想を掲げながら、その通りに行かないと「こんなはずではなかった」と言いますが、それと同じことを弟子たちも経験していました。そのギャップをキリスト教信仰に当てはめると、キリストを信じたのに願い通りにならなかったとか、たくさん奉仕して良いことを行ったのに報われなかったとか、信仰と実際との間に生じるギャップを埋めきれず、信仰に対して冷めた思いになってしまうことがあります。あるいは、信じてても意味がないと言って信仰を捨ててしまう人が出てくるわけです。でも、それは

信じるということをご利益的に理解しているボタンの掛け違いから生じているのです。

イエスさまは弟子たちの掛け違えたボタンを最初から掛け直すために、旧約聖書からご自分について書かれていることを一つ一つ丁寧に説き明かされました。イエスさまは間違ったメシヤ像を抱いた弟子たちに「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。」

(25 節)と叱責された後、「キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」と、ご自分の十字架と復活は必然のことであり、すでに旧約聖書に預言として書かれていることであると諭されたのです。「それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」(27 節)。クリスチャンにとって、出来事の一つ一つを聖書から説き明かしていくという作業が大切になってきます。例えば、競争社会の中で必死に生きている人間は、もともとそのように競争して勝つために造られたのだろうか。勝つ者が勝者で負ける者が敗者となるように造られているのだろうか。世の中はそうかもしれないが、聖書は何と言っているのだろうかという視点で物事を考えてみる必要があるのです。人間存在の意味は聖書の冒頭創世記 1～2 章に出て来ますが、そこには競争などありません。人間存在の意味について一例として上げましたが、あらゆることに対して聖書に立ち返って考えることを身に着けて行きたいと思います。

3. 心の目を開いて

こうしてイエスさまはご自分のことを聖書から説き明かされ、夕食の席でパンを弟子たちに分け与えたとき、「彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。」(31 節) のでした。冒頭に弟子たちの目はさえぎられていたと言いました。しかし、肉体の目は開かれていたのです。見えているのに見えていないという目が今ここで開かれました。その目とは心の目であり信仰の目なのです。私たちは身体的な制約がなければ、多くの人が肉体の目は開かれています。ですから聖書を読めば、ある程度内容は理解

できます。難解な部分がありますが、心に響くことばがあることは確かです。しかし、それが自分の生き方に反映されるほどのインパクトで心の中に入って来るかと言えば、必ずしもそうではありません。聖書や礼拝のお話を聞いて、聖書にはいいことばがありますね。今日のお話は良かったですね。賛美はきれいですねなど、心に何かの印象は残しても、それがその人の血となり肉となって形造っていくためには、心の目で信仰を持って受け止めることが必要であり、その受け止めたことに生きることが大切なのです。

弟子たちはイエスさまが聖書を説き明かして下さることを聞きながら、十字架と復活の必然性を理解しただけでなく、心が燃える経験をしました。「道々お話して下さる間、私たちに聖書を説き明かして下さる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」(32 節)と証言しています。心の目が開かれると、今まで見えなかったものが見えるようになります。聖書のことばが、生きたことばとして心に入ってくるようになります。それによって心に感動が与えられ、弟子たちの経験が私たちの経験となるのです。良く「十字架は私の罪のため」といいますが、これに心から同意できるのは、心の目が開かれ十字架の場面に自分を置くことができるからなのです。それゆえに私たちは「聖書を正しく理解できるようにしてください」と祈ることが求められているのではなく、「心の目を開いてください。開かれた目でイエスさまを見ることができるようになってください。」と祈らなければいけないのです。心の目を開いてくださるのは、聖霊なる神さまです。聖霊が私たちの目を開いてくださって復活の主を見せてくださるのです。聖霊の働きに期待して、主の前に出させていただきましょう。5/31 は聖霊降臨をお祝いするペンテコステです。来週から 5 月に入りますので、5 月の礼拝は私たちの目を開いて下さる聖霊の働きに焦点を当ててみことばを味わいたいと願っています。

まとめ

「Open the Eyes of My Heart」という賛美があります。興味ある方は YouTube で検索してみてください。イエスさまを見ることができるようになる心の目を開いてくださいという賛美です。聖霊が私たちの心の目を開いてくださって、

今まで見てはいたけれど見えなかった世界を見せてくださるよう祈りましょう。開かれた目でこの世界を見るとき、その世界はイエスさまが見ておられる世界であることに気づきます。イエスさまが私たちをどんなに愛しておられるのかが見えるようになり、その愛が失われてしまった世界がどんなに悲しいものなのかが分かるようになります。失われた世界を回復するために、私たちが何をしなければならぬかも見えるようになってきます。イエスさまがいつも言っておられる、互いに愛し合いなさいということがどんなに大切なことなのかが見えるようになってきます。私たちの目がもっと開かれるために聖霊の働きに期待して祈りましょう。